

子どもの生活実態調査 主な調査結果

※この資料では、精査前の暫定数値を使用しています

【階層区分について】

- 階層Ⅰ … 等価可処分所得(※)が122万円未満の世帯
- 階層Ⅱ … 等価可処分所得が122万円以上244万円未満の世帯
- 階層Ⅲ … 等価可処分所得が244万円以上366万円未満の世帯
- 階層Ⅳ … 等価可処分所得が366万円以上の世帯

※ 等価可処分所得について

世帯の可処分所得(収入から税金や社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入)を世帯人員の平方根で割って調整した所得のことをいう。算出方法はOECD(経済協力開発機構)の作成基準に基づく。

なお、平成28年の国民生活基礎調査における、国の中央値は244万円。

市民アンケート (単位:%)

<保護者>

問1 過去1年間に、お金が足りなくて、お子さんが必要とする文具や教材が買えないこと、学校に係る経費の支払いに苦慮したことがありましたか【課題③】

	5歳					10歳					13歳					16歳				
	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計
ある	15.9	5.6	0.6	0.0	4.5	24.4	8.4	0.8	1.0	6.9	22.2	10.6	2.7	0.0	7.6	29.4	12.5	3.1	0.0	8.2
これまでにはないが、今後その可能性がある	36.5	23.0	10.1	11.1	19.1	30.0	28.2	9.9	4.0	19.9	27.8	22.0	17.8	9.9	19.6	32.4	38.3	23.6	7.0	26.1
これまでになく、今後もその可能性はない(可能性は低い)	47.6	71.0	88.2	86.1	75.6	44.4	62.8	88.2	94.9	72.5	48.1	67.0	78.9	90.1	72.3	35.3	48.3	70.9	93.0	64.2
無回答	0.0	0.4	1.1	2.8	0.9	1.1	0.5	1.1	0.0	0.7	1.9	0.4	0.5	0.0	0.6	2.9	0.8	2.4	0.0	1.4

⇒ 5歳、10歳、13歳、16歳の各年代のいずれについても、「ある」または「これまでにはないが、今後その可能性がある」と答えた割合が階層Ⅰに多く、階層があがるにつれて割合は減っていく傾向にある。

問2 経済的な理由により、お子さんに進学をあきらめさせたり学校を中退させたりしたことはありますか【16歳】【課題③】

	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計
ある	8.8	1.7	0.8	0.0	1.7
これまでにはないが、今後その可能性がある	23.5	30.0	20.5	5.6	21.0
これまでになく、今後もその可能性はない(可能性は低い)	64.7	66.7	78.0	91.5	75.6
無回答	2.9	1.7	0.8	2.8	1.7

⇒ 経済的な困難等により学習に関わる環境に影響が及ぶと考えられる

⇒ 「ある」または「これまでにはないが、今後その可能性がある」と答えた割合は、階層Ⅰに多く、階層があがるにつれて割合は減っていく傾向にある。

問3 お子さんについて、学生ボランティア等による、無料の学習支援制度(学習の手助けなど)があった場合、利用したいと思いますか【課題①】

	5歳					10歳					13歳					16歳					制度
	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	総計
現在利用している	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4	1.0	0.8	2.0	1.4	0.0	0.9	0.0	0.0	0.4	5.9	0.0	0.0	0.0	0.6	2.8
今後利用したいと思う	42.9	35.3	28.7	27.8	33.2	46.7	42.0	33.8	35.4	39.2	44.4	43.6	37.8	28.2	39.7	38.2	45.8	41.7	42.3	42.9	68.5
利用するつもりはない	9.5	14.9	20.8	19.4	16.7	21.1	16.3	24.3	24.2	20.2	22.2	19.4	28.1	33.8	24.6	52.9	52.5	57.5	57.7	55.4	27.2
無回答	47.6	49.8	50.6	52.8	50.2	27.8	40.7	41.1	38.4	39.2	33.3	36.1	34.1	38.0	35.4	2.9	1.7	0.8	0.0	1.1	1.6

⇒ 階層による大きな差は見られないが、各年代においても、無料の学習支援制度について一定のニーズがあることが伺える。

問4 お子さんの将来のために貯蓄(学資保険等を含む)をしていますか【課題③】

	5歳					10歳					13歳					16歳					制度
	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	総計
貯蓄をしている	65.1	71.7	89.3	91.7	78.9	47.8	62.1	83.7	90.9	70.7	46.3	59.0	71.9	88.7	66.1	29.4	54.2	76.4	90.1	67.0	31.5
貯蓄をしたいができていない	31.7	25.7	8.4	6.9	18.7	46.7	35.4	14.4	6.1	26.6	48.1	34.8	24.9	8.5	29.2	70.6	42.5	22.0	4.2	30.1	65.1
貯蓄をするつもりはない	0.0	0.7	0.0	0.0	0.3	1.1	1.0	0.8	1.0	0.9	1.9	0.4	0.5	0.0	0.6	0.0	1.7	0.0	2.8	1.1	0.7
無回答	3.2	1.9	2.2	1.4	2.1	4.4	1.5	1.1	2.0	1.8	3.7	5.7	2.7	2.8	4.1	0.0	1.7	1.6	2.8	1.7	2.8

⇒ 「貯蓄をしている」割合は、階層Ⅳほど高く、階層が下がるにつれて割合が低くなる。逆に「貯蓄をしたいができていない」のは階層Ⅰほど多い。

問5 本市事業の認知度について【課題②】

①就学援助	5歳					10歳					13歳					16歳					制度
	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	総計
知っていて、利用もしている	14.3	4.5	1.7	1.4	4.3	24.4	4.8	0.0	0.0	4.9	31.5	7.0	1.1	0.0	6.5	26.5	18.3	7.9	1.4	11.9	57.8
知っているが、利用していない	41.3	44.2	51.7	48.6	46.7	47.8	70.0	78.7	83.8	72.0	50.0	74.4	84.9	73.2	75.4	35.3	60.0	74.0	73.2	65.3	25.4
知らなかった	39.7	46.8	44.9	47.2	45.5	21.1	22.1	19.0	14.1	20.1	11.1	15.9	11.4	23.9	14.9	8.8	7.5	12.6	21.1	12.2	10.7
無回答	4.8	4.5	1.7	2.8	3.4	6.7	3.1	2.3	2.0	3.1	7.4	2.6	2.7	2.8	3.2	29.4	14.2	5.5	4.2	10.5	6.1

⇒ 「知らなかった」世帯の割合について、階層における差は大きくはないが、年代別にみると5歳が最も多く、年代が上がるにつれて、知らない世帯の割合が減っている。  
また、10歳の階層Ⅰでは2割、13歳の階層Ⅰでは1割が「知らなかった」と回答している。

②奨学金(篤志奨学金、育英奨学金) 5歳

	5歳					10歳					13歳					16歳					制度
	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	総計
知っている、利用もしている	1.6	0.7	0.6	0.0	0.7	2.2	0.5	0.4	0.0	0.6	0.0	0.4	0.0	0.0	0.2	14.7	4.2	0.8	0.0	3.1	4.5
知っているが、利用していない	46.0	49.1	50.0	50.0	49.1	48.9	57.8	63.9	71.7	60.4	63.0	63.9	65.4	60.6	63.9	41.2	57.5	70.9	64.8	62.2	47.8
知らなかった	50.8	45.4	48.3	47.2	47.1	43.3	37.7	32.7	26.3	35.4	31.5	31.7	31.9	35.2	32.2	35.3	30.8	24.4	32.4	29.3	40.3
無回答	1.6	4.8	1.1	2.8	3.1	5.6	4.1	3.0	2.0	3.7	5.6	4.0	2.7	4.2	3.7	8.8	7.5	3.9	2.8	5.4	7.4

⇒ 就学援助制度と同じく、「知らなかった」世帯の割合について、階層における差は大きくはないが、年代別にみると5歳が最も多く、年代が上がるにつれて、知らない世帯の割合が減っている。また、13歳及び16歳の階層Ⅰでも3が「知らなかった」と回答している。

③スクールソーシャルワーカー 5歳

	5歳					10歳					13歳					16歳					制度
	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	総計
知っている、利用もしている	0.0	0.4	0.6	0.0	0.3	2.2	3.1	1.5	0.0	2.1	0.0	0.9	0.5	2.8	0.9	0.0	0.8	0.0	0.0	0.3	3.6
知っているが、利用していない	33.3	43.9	46.1	51.4	44.3	61.1	65.9	66.9	70.7	66.3	57.4	68.7	66.5	57.7	65.4	52.9	65.0	64.6	64.8	63.6	49.8
知らなかった	63.5	51.3	51.7	47.2	52.2	30.0	28.5	28.9	27.3	28.6	37.0	28.2	29.7	36.6	30.7	32.4	25.0	32.3	32.4	29.8	38.8
無回答	3.2	4.5	1.7	1.4	3.1	6.7	2.5	2.7	2.0	3.0	5.6	2.2	3.2	2.8	3.0	14.7	9.2	3.1	2.8	6.3	7.8

⇒ 「知らなかった」と答えた割合は5歳がもっとも多く、階層全体でも半数以上にのぼる。スクールソーシャルワーカーが配置されている小中学校世代である10歳、13歳においても、3割程度が知らない状況にある。なお、階層による大きな差は見られない。

問6 お子さんにとって、現在、または将来的に、どのような支援があるとよいと思いますか<複数回答>【課題①～③】

制度

	総計
保護者が家にいないときに子どもを預かる場やサービスの提供	31.5
進路や生活などについてなんでも相談できる場所や機会の提供	32.4
仲間と出会え、一緒に活動できる場所や機会の提供	29.6
低い家賃で住めるところ(寮や下宿のようなところ)	43.9
自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供	27.3
仕事に就けるようにするための就労に関する支援	29.6
読み書き計算などの基礎的な学習への支援	27.9
地域における子どもの居場所の提供	23.9
会社などでの職場体験等の機会	28.4
生活や就学のための経済的補助	64.4
特にない	2.8
よくわからない	3.1
その他	2.1

⇒ 今後の子どもの進学に関連すると考えられる

⇒ 子どもにとってあるとよい支援として「生活や就学のための経済的補助」が最も多く64.4%であった。

その次に多いのが「低い家賃で住めるところ(寮や下宿のようなところ)」43.9%、「進路や生活などについてなんでも相談できる場所や機会の提供」32.4%と続き、経済的な支援や相談場所・機会を望む声が多いことがわかる。

## <子ども>

### 問1 家族のことなどで、何か困っていることや嫌なことはありますか<複数回答>【課題①～③】

	10歳					13歳					16歳					制度
	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	総計
家族のだんらんや会話が少 ない	1.1	1.6	0.8	0.0	1.1	1.9	2.7	2.2	1.4	2.3	3.0	4.2	0.0	1.4	2.0	2.4
親が厳しすぎる	6.8	7.3	7.4	10.5	7.6	5.6	5.4	4.9	11.6	6.0	0.0	8.3	3.3	4.3	4.9	7.5
親が自分の気持ちをわかっ てくれない	11.4	11.2	7.8	8.4	9.8	13.0	11.2	11.4	14.5	11.9	6.1	15.0	7.3	12.9	11.1	12.6
親との仲が悪い	0.0	2.9	0.8	2.1	1.8	5.6	3.6	2.7	5.8	3.8	6.1	4.2	1.6	1.4	2.9	2.7
親同士の仲が悪い	1.1	4.7	3.1	4.2	3.8	7.4	3.6	4.9	4.3	4.5	6.1	9.2	1.6	1.4	4.6	3.2
きょうだいとの仲が悪い	17.0	14.1	10.5	9.5	12.7	9.3	7.6	6.5	5.8	7.2	0.0	2.5	4.1	4.3	3.2	10.7
家で落ち着いて勉強できる 環境がない	4.5	4.7	5.8	8.4	5.5	7.4	6.7	4.3	4.3	5.7	3.0	5.8	4.1	2.9	4.3	12.0
病気の人やお年寄りの世話 が大変である	0.0	2.3	0.4	0.0	1.2	0.0	2.2	2.7	0.0	1.9	3.0	2.5	0.0	1.4	1.4	1.6
食べるごはんがないときが ある	3.4	0.8	0.0	0.0	0.7	3.7	0.9	0.0	0.0	0.8	0.0	1.7	0.0	2.9	1.2	4.3
着る服が少ない	4.5	2.3	0.8	0.0	1.8	9.3	8.1	5.4	4.3	6.8	0.0	7.5	8.1	4.3	6.4	5.9
家の中がちらかっている	10.2	14.1	12.8	12.6	13.1	14.8	12.1	9.2	5.8	10.6	9.1	7.5	8.1	1.4	6.6	14.2
家にお金がない(少ない)	11.4	5.0	1.2	2.1	4.1	16.7	8.5	5.4	0.0	7.2	33.3	14.2	8.1	2.9	11.6	26.2
特に困っていることや嫌なこ とはない	54.5	57.7	64.0	55.8	59.1	50.0	52.9	61.4	62.3	56.8	48.5	55.8	58.5	60.0	56.9	40.9
その他	0.0	2.6	2.7	1.1	2.2	3.7	1.8	1.6	2.9	2.1	0.0	2.5	0.8	5.7	2.3	4.3
無回答	8.0	5.2	8.1	11.6	7.2	11.1	11.2	6.5	7.2	9.1	3.0	5.8	13.0	17.1	10.4	10.2

⇒ 子どもの困りごとや嫌なことについて、各年代ともに高い割合であったのは、「親が自分の気持ちをわかってくれない」「家の中がちらかっている」であった。また、小中学生では「きょうだいとの仲が悪い」が、中高生では「家にお金がない(少ない)」が高い傾向にある。また、階層別にみると、階層Ⅰほど「家にお金がない(少ない)」割合が高い。制度利用世帯においては、上記のほか「家で落ち着いて勉強できる環境がない」と答えた割合が一般世帯に比べ多かった。

問2 ふだん(月曜日～金曜日)の放課後、だれと過ごしますか<複数回答>【課題①】

	10歳					13歳					16歳					制度
	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	総計
おうちの大人(お母さん・お父さん・おばあさん・おじいさんなど)	69.3	73.4	75.6	68.4	73.1	57.4	64.1	71.2	62.3	65.7	48.5	35.8	46.3	31.4	39.9	50.8
きょうだい	42.0	50.7	43.0	40.0	46.1	55.6	43.5	41.3	36.2	43.0	12.1	16.7	13.8	14.3	14.7	34.2
おうちの人以外の大人(近所の大人、児童クラブや塾・習い事の先生など)	12.5	19.3	25.6	25.3	21.2	20.4	22.9	19.6	18.8	20.9	3.0	4.2	3.3	4.3	3.8	11.0
学校のともだち	50.0	51.7	55.0	50.5	52.4	55.6	59.2	57.6	56.5	57.9	60.6	65.8	74.8	71.4	69.7	59.6
学校以外のともだち(地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど)	18.2	11.5	14.3	13.7	13.3	3.7	13.9	13.0	11.6	12.3	9.1	8.3	4.1	5.7	6.4	7.2
ひとりである	19.3	17.5	16.3	21.1	17.7	33.3	24.7	23.9	31.9	26.2	36.4	26.7	25.2	22.9	26.3	26.2
その他	1.1	0.8	0.4	1.1	0.7	0.0	0.9	1.1	1.4	0.9	3.0	1.7	0.8	1.4	1.4	1.3
無回答	3.4	1.6	2.7	4.2	2.4	5.6	2.2	0.5	0.0	1.7	0.0	3.3	4.1	0.0	2.6	3.2

⇒ ふだん(月曜日～金曜日)の放課後を一緒に過ごす相手として、いずれの年代についても「おうちの大人」「学校のともだち」と答える割合が多かった。一方、「ひとりである」と答えた割合が各年齢の総計で2割前後あり、一定数の子どもが放課後の時間ひとりであることがわかる。

問3 ふだん(月曜日～金曜日)の放課後、どこで過ごしますか<複数回答>【課題①】

	10歳	13歳	16歳	全体	制度
自分の家	87.0	88.5	66.6	83.6	81.6
おばあさん・おじいさんの家	11.7	5.7	1.0	7.7	6.7
ともだちの家	36.9	17.0	3.5	24.2	24.1
塾・習い事	45.0	44.8	13.1	38.9	25.7
学校(クラブ活動など)	18.5	50.9	64.4	37.6	36.9
公園・広場	27.8	7.7	3.7	16.8	17.6
スーパー・ショッピングモール・コンビニ	2.8	4.9	11.1	5.1	6.4
ゲームセンター	0.7	3.3	3.5	2.1	2.9
図書館や公民館などの公共の施設	3.0	3.2	3.5	3.1	2.7
地域の居場所	2.7	1.6	0.7	2.0	2.4
児童クラブなど	2.1	0.3	0.0	1.1	1.3
その他	0.9	1.3	1.0	1.0	0.8
無回答	2.4	1.3	1.5	1.9	1.6

⇒ ふだん(月曜日～金曜日)の放課後を過ごす場所として、各年代で最も多かったのは「自分の家」であった。  
次いで多かったのは、「塾・習い事」や「学校(クラブ活動など)」であった。

問4 自宅や学校以外の場所で、無料で大学生のボランティアなどと活動をしたり、落ち着いて過ごしたりできる居場所があれば利用したい【13歳以上】【課題①】

	13歳					16歳					制度
	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	総計
そう思う	20.4	20.2	16.3	17.4	18.5	21.2	20.8	18.7	21.4	20.2	19.6
どちらかというと思う	27.8	32.7	35.9	24.6	32.3	27.3	30.8	33.3	25.7	30.3	28.6
どちらかというと思わない	24.1	21.1	23.4	24.6	22.6	21.2	15.8	22.0	17.1	18.8	18.4
そう思わない	25.9	23.8	21.7	31.9	24.3	27.3	29.2	23.6	35.7	28.3	29.0
無回答	1.9	2.2	2.7	1.4	2.3	3.0	3.3	2.4	0.0	2.3	4.3

⇒ 自宅や学校以外の居場所について利用したいと「思う」「どちらかというと思う」と答えた割合は、13歳、16歳のいずれも半数近くあり、一定のニーズがあることが伺える。なお、各回答について階層による差はあまり見られなかった。

問5 その居場所では、どのようなことができればよいと思いますか〈複数回答〉【課題①】

	13歳					16歳					制度
	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	総計
大学生やほかの子とおしゃべりしたり遊んだりできる	24.1	28.7	31.0	31.9	29.4	24.2	19.2	22.0	25.7	22.0	18.4
友達をつくることができる	37.0	37.7	35.3	33.3	36.2	21.2	24.2	26.8	24.3	24.9	28.6
食事やおやつを食べることができる	29.6	28.7	28.8	26.1	28.5	12.1	17.5	17.9	18.6	17.3	22.4
食事やおやつを一緒につくることができる	25.9	20.6	17.4	15.9	19.4	3.0	5.0	12.2	5.7	7.5	15.7
自分がやりたいことをマイペースにすることができる	31.5	44.8	50.5	47.8	45.8	33.3	50.0	44.7	40.0	44.5	44.7
いろいろな行事に参加することができる	20.4	19.3	20.1	15.9	19.2	15.2	15.8	15.4	21.4	16.8	12.9
勉強を教えてもらいながら自分のペースで学習できる	51.9	43.0	43.5	33.3	42.8	33.3	38.3	40.7	44.3	39.9	40.4
読書などをして、静かに過ごすことができる	31.5	31.4	33.2	31.9	32.1	27.3	26.7	26.0	25.7	26.3	25.9
お風呂に入れる	16.7	13.0	10.3	14.5	12.6	6.1	12.5	8.1	8.6	9.5	9.4
泊まることができる	16.7	20.2	20.1	17.4	19.4	9.1	16.7	12.2	12.9	13.6	16.5
悩み事(家、学校、友だちなど)について相談できる	16.7	14.3	19.0	18.8	16.8	15.2	13.3	15.4	18.6	15.3	15.7
その他	1.9	2.7	2.2	2.9	2.5	0.0	1.7	0.8	2.9	1.4	3.9
無回答	9.3	8.5	8.2	8.7	8.5	21.2	10.0	10.6	11.4	11.6	13.3

⇒ 放課後の過ごし方として、どのような状態が適切なのか

⇒ 問5で答えた居場所でやりたいことについて、両年代でもっとも多かった回答は「自分がやりたいことをマイペースにすることができる」であった。その後は、「勉強を教えてもら

## <保護者>

### ○ 子どもの教育・学校に関すること

- ・学校の環境(トイレの洋式化、空調機の設置等)をよくしてほしい
- ・教育費、学校経費の負担が減るとありがたい

### ○ 経済的支援に関すること

- ・子ども医療費の充実(無償化、高校生までの拡大)
- ・大学にかかる費用の負担を減らしてほしい
- ・奨学金制度を充実させてほしい(返還不要の給付型など)
- ・多子世帯への支援が充実するとうい

### ○ 就労支援に関すること

- ・子育て中の母親の就労支援をしてほしい
- ・自立支援に力を入れていただきたい

## <子ども>

### ○ 学校や学習に関すること

- ・勉強がわからないときに教えてくれる場所があるとうい
- ・勉強ができるフリースペースを増やしてほしい(図書館の自習室はいつもいっぱい)
- ・先生にはもっと生徒の気持ちを理解してほしい
- ・教室に空調を設置するなど勉強のための環境をよくしてほしい
- ・面白い本などの読み聞かせを増やした方がいいと思う

### ○ 遊び場や居場所に関すること

- ・放課後の遊び場や居場所が少ないので増やしてほしい
- ・思いっきり遊べる公園や児童館などがほしい

### ○ 子どもの居場所・遊び場に関すること

- ・子どもを連れていける遊び場を増やしてほしい
- ・こども園や放課後児童クラブなどを充実させてほしい(施設整備、利用料の減額等)
- ・学校以外にも、学習活動や体験活動ができる場所があるとうい

### ○ 相談窓口・機関に関すること

- ・子育ての相談をしたいと思っても、仕事をしているので平日には相談できない
- ・子どものことなど相談できる場所がもっと多ければいいと思う
- ・専門職以外にも、身近に相談相手がいるとういなと思います。
- ・学校のスクールカウンセラーなど、来校の頻度を増やしてもらえるとありがたい

### ○ ひとり親家庭支援に関すること

- ・ひとり親への支援が足りないように思う
- ・仕事をしないと生活できないが、仕事をすると所得制限で手当を受けられない
- ・別居中の場合、ひとり親と同じ取り扱いにしてほしい(援助が受けられない)

### ○ 相談機関等に関すること

- ・いじめの悩み事や相談事をSNSでできるようにしてほしい
- ・いろいろな相談ができる場所や時間を増やしてほしい
- ・担任以外の先生に相談したい
- ・スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーに相談しやすくしてほしい  
(相談するのに教員を通さなければならなかったり、相談していることを知られてしまったりする)

### ○ その他の意見

- ・高校生もまだ子どもなので、医療費や施設の入場料を無料にしてください
- ・図書館の開館時間を延ばしたり、蔵書を増やしたりするなど充実させてください
- ・近隣の学校との交流があるとういと思います

# 支援者ヒアリング・アンケート

※支援者調査において「〇〇が多い」という意見は、支援者から聞き取ったものを整理したものであり、困難を抱えやすい家庭全てにあてはまるものではなく、また、統計的な裏付けがされているものではありません。

## <主な意見>

### 問1 困難を抱えやすい、あるいは、抱えている家庭(子ども・保護者)の特徴・課題等

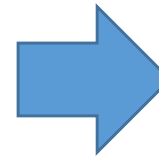
#### ○子どものあらわれ

- ・忘れ物や提出物の遅れ、忘れが多くみられる
- ・宿題をやってこない、勉強に遅れがみられる
- ・生活習慣、リズムに乱れがある(遅刻や欠席が多い)
- ・朝食をとらないことが多い
- ・服装の乱れがある(洗濯されていない、季節感がない等)
- ・落ち着きがなかったり、発達が気になったりすることがある
- ・周りの大人や子どもと関われないか、苦手。もしくは、関わり方がわからない
- ・大人に過度に甘えたり、警戒心が強かったりする

#### ○保護者のあらわれ

- ・子どもにあまり関わっていない、関わりが少ない
- ・しつけや家庭教育ができていない
- ・ひとり親家庭であることが多い
- ・家庭内に問題を抱えている(夫婦間の不和等)
- ・周りに相談できる人、協力してもらえる人がおらず、孤立している
- ・心身の不調を抱えていることがある、障がいをもっていることがある

困難を抱える家庭では、  
 子どもは、学習面や衣食住をはじめとする生活面、  
 他者との関わりに課題を抱えることが多い  
 保護者は、子どもとの関わり方や周囲との関係、  
 自身の健康状態に課題を抱えることが多い

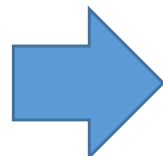


### 問2 支援にあたり、課題に思うこと、困難を感じること

#### ○関係機関との連携

- ・卒園後の対応が難しい
- ・関係機関同士の話し合いの場、時間が十分でなく、支援者同士の情報共有が図れない(認識のずれが生じることも)
- ・個人情報の問題があり、共有化が難しい

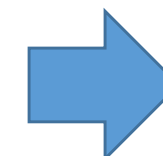
支援者同士の情報共有の場の設定や、  
 共有の仕方について工夫



#### ○保護者の考えなどにより支援につながらない

- ・支援制度を紹介しても、理解を示さない保護者が多い
- ・支援者側が問題があると思っても、その家庭(保護者)に困り感がない
- ・支援機関に対して警戒感をもっていることが多い
- ・保護者が仕事で忙しく、相談窓口に行けず支援に結び付かないことがある

困難を抱える世帯を適切な支援につな  
 げるための取組  
 ・相談機会の充実  
 ・アウトリーチを含めた積極的な関与

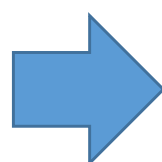




### 問3 市に期待する取組(実施する必要があると思う支援)

#### ○子どもの学習に対する支援や居場所づくり

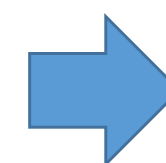
- ・子どもが1人で通える範囲に学習支援の場を増やす
- ・既存の学習支援は中学生までなので高校生にも広げる
- ・子どもの多様性に応じた居場所づくり
- ・子どもの居場所(食事の提供など)をつくる必要がある
- ・家庭に居場所がない子も多く、家以外の居場所が必要



子どもの学びや友人・地域とのつながりを支える環境づくり

#### ○経済的支援、就労支援の充実

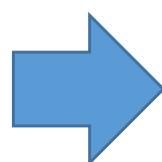
- ・親としての自立を含めた就労支援が不可欠
- ・経済的支援の充実(手当等)
- ・進学のための助成(給付型の奨学金の拡大など)
- ・高校入学金の支援(制服・入学金等)
- ・放課後児童クラブの充実



困難を抱える世帯の生活の安定化、子育て環境の改善が必要

#### ○SSWr(スクールソーシャルワーカー)の活用の充実

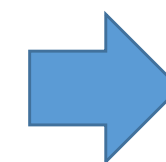
- ・未就学児を預かる園に対しても、専門的な相談員を派遣したり、配置してもらえるとありがたい。
- ・常駐化することで、継続的な支援につなげたい
- ・SSWrの勤務時間を拡充する



各校における支援につなげるため、さらなる活用の充実が必要

#### ○相談体制の充実や支援に関する情報提供

- ・相談窓口の明確化や、窓口を増やすなどし、相談しやすい体制をつくる
- ・「このようなときには〇〇に相談」といったフローチャートの作成
- ・ちょっとしたことでも気軽に相談できる場所が必要
- ・保護者がSOSを出しやすい関係づくり
- ・支援があっても知らない人が多いので、情報提供・周知が必要



親も子も困ったら相談できる場づくりと効果的な事業周知